

大掃除・忘年会  
のお知らせ

12月16日(日)

午後4時より

大掃除終了し忘年会

会費:2,000円

会場:門徒会館

出欠の連絡は各会長まで

仏社会長 国分正剛 27-8066

仏婦会長 佐藤徳枝 27-6710

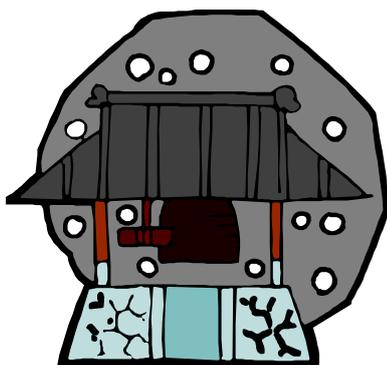
報恩講のお手伝いありがとうございました。おかげで無事お勤めができました。例年に比べ参加者が少なかったことが残念でした。大勢の皆さんが何をにおいてもお参りに来たいと思っていただけるような法要をできるように願っております。ご協力のほどをお願い申し上げます。その折、厨房のあたりで金色のブローチを落とされた方がいらっしまいましたらお申し出ください、お寺でお預かりしております。(住職)



11月27日のカレンダーの発送準備には大勢の方がおいでいただきました。400通を超える封筒にカレンダーなどをつめていただきましたが、おかげで1時間足らずで終了することができました。そのあとのヌーボーの会は仏壮・仏婦会員の方の参加が少なく残念でした。けれど、例年におとらず楽しいつどいができました。この次は門徒さんに限りませんので、ぜひ大勢の方を誘っていただいいておいでください。

別記のお知らせの通り「大掃除」をおこないます。報恩講の折にかなりきれいにさせていただいておりますので、その折に遣り残したところや、報恩講で使った会館を中心をお願いします。終わってから忘年会を昨年同様におこないますので、こちらもふるってご参加ください。あんな話こんな話、この一年の思い出を語りながらともに時間を過ごしましょう。

ヌーボーの会に見頃西光寺から5名参加いただきました。その折、大晦日の除夜の鐘突きで蕎麦を打ってご接待しますのでぜひおいでくださいと、ご案内をいただきました。とても美味しい蕎麦です、一緒に行ってみませんか。



元旦勤行

1日午前10時より

お勤めします

大勢の方のお参りを

お待ちしております

## 「ともに いのち かがやく 世界へ」

基幹運動推進本部専門委員 沖井智子

題名は、現在の基幹運動のスローガンです。現代社会の動きも反映されたスローガンです。そして、真宗の教えの根底のところから出されたものと私は受け取っています。

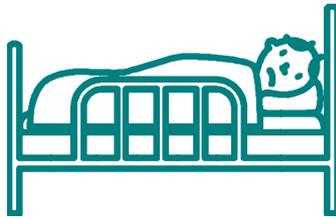
私の知人のご家族のお話をします。その家族の次男さんが小児病棟に入院していた時のことです。彼にはお兄ちゃんとお姉ちゃんがいました。お姉ちゃんはもう結婚をしていました。お兄ちゃんは子供の頃の高熱が原因で知的障害をもっていました。お兄ちゃんは年齢離れた弟のところに、毎日お見舞いに来ていました。そのお兄ちゃんが、突然リンパ腺癌で亡くなってしまいました。あっという間のことでした。小児病棟中シーンとしてしまいました。みんながわが事としてお兄ちゃんの死を受け止めていました。

そんな中で弟は「お兄ちゃん分までがんばる!」と、心臓の手術を受けそして元気になりました。すばらしい家族の支えと、本人の前向きな姿がそこにはありました。彼はその後何度も入退院を繰り返していましたが、本人の努力と周囲の支えにより、高校を卒業し就職することができました。もともと体が弱く、多少の知的障害があったものですから、勤め先は障害者の方々も受け入れてくださっていた「パン屋さん」でした。

なかなかお友達もできず、一人で出かけることもできなかった彼は、この「パン屋さん」が居場所になりました。自分の存在価値を感じ取れたのでしょうか。

でも残念ながら、今年のお盆が終わった頃、体調を崩して亡くなりました。亡くなる時まで「パン屋さん」に行くことを楽しみにしていたそうです。いつもきらきらと輝く眼をして、私たちの心を明るく綺麗にしてくれていました。

彼はこのようにして自分の居場所を見つけ、



働く喜びをかみしめていったのです。

また別の子供さんには、こんなこともありました。やはり就職をする時期になってのことです。その子は子供の頃から病気でしたが、薬を飲みながらも普通の生活を送っていました。親元を離れて一人で大学生活も送っていましたし、時には徹夜もしました。

その子が、就職の願書を出した時のことです。願書は受け付けられたのですが、受験日 5 日前になって、親元に「受験はおことわりします。病気が治ってからにしてください。」という電話がありました。成人した子が自分の将来を考えて出した願書に対して、本人にではなく親に連絡があったのです。本人に連絡が届いたのは受験日の前日でした。

この問題は、病気を得ているから就職を拒否されたという事実です。

彼ら二人にはそれぞれに障害がありました。しかしながら、一方では就職ができ、一方ではできなかったという事実は、私たちにどのような問題を投げかけているのでしょうか。

スローガン「ともに いのち かがやく世界に」を考えたときに、私たちが普段見落としていることに気付かされます。

私たちはついつい自分の目に付いたものに対して、自分の物差しでしか考えていないのではないのでしょうか? 目に見えていないところで泣いているいのちが沢山あるのです。そして、居場所をなくしてしまっているのです。そういう「いのち」にこそ目を向けていく。「病気を持っているからあなたは要らないです。」という世界ではあまりにも悲しいですね。

「パン屋さん」のように、その障害を個性として受け止めて、一緒に居場所を作っていく、そのように、自分さえよければではなく「おたがいさま」「おかげさま」という気持ちで触れ合い、お互いに「いのち かがやく世界」をともにつくっていくことが大切なのではないのでしょうか。それが、阿弥陀様に願われた「いのち」をともに育てていくということであり、そしてそれが、基幹運動の根底にある願いであると同時にそれをスローガンに込めて掲げたのだと私は受け取っています。

みなさんも、もっと身の周りのことにも、目を向けてみませんか?

